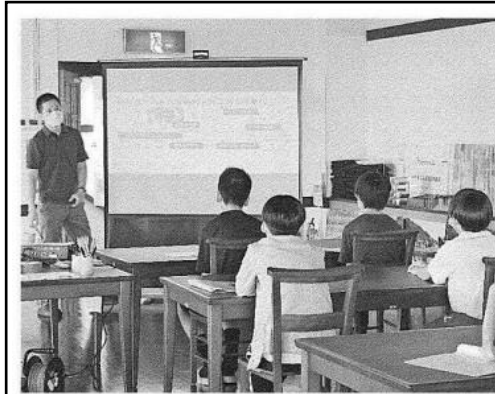


年 組 名前:



スマホなし生活体験

身延 中学生15人がキャンプ

中学生を対象に、スマートフォンやゲームなどを持ち込まずに生活する「デジタルデトックスキャンプ」(県主催)が3日まで、身延町内で開か

れている。参加者は、専門家の講義や集団生活を通じ、デジタル機器の利用や生活習慣を見直す。

県によると、キャンプは身延町平須の「みぶ自然の里」を会場に3泊4日の日程で、県内の中学生15人が参加している。

スマートフォン

インターネット

やゲームの依存症について説明

を受ける参加者

|| 身延町平須

やゲームなどを持ち込まず、ゲーム依存の経験がある人や専門家の話を聞き、集団でピザ作りや自然体験をするなどして現実世界での充足感や依存症のリスクを学ぶ機会にしている。

「1日は県立精神保健福祉センターの志田博和所長が講義をし、依存症を「欲求をコントロールできず、社会生活や健康に影響が出ている状態」と解説。ネットやゲームに過度に依存することで、睡眠不足や学力低下、対面のコミュニケーションへの支障など、想定されるリスクを説明した。

中学1年の男子生徒(12)は「みんなと生活してスマホがなくても楽しいと感じた。適切な利用と、人とのコミュニケーションの大切さを学んだ」と話した。

〈山本就巳〉

問1

「デジタルデトックスキャンプ」とは、どのようなキャンプですか。

.....

.....

問2

「デジタルデトックスキャンプ」の目的は、何ですか。

.....

.....

(2022年8月3日付 山梨日日新聞 19面)

問3

キャンプでの講義で、「依存症」について、専門家は、どのように解説していますか。

.....

.....

問4

ネットやゲームに過剰に依存することは、どのようなリスクが想定されると解説していますか。

.....

.....